THE NEW VALUE FRONTIER

KYOCERA

第30回 日本顎咬合学会 学術大会 総会

テーブルクリニックのご案内

6/10 Sun　東京国際フォーラム B2F 展示ホール　テーブル 10

セッション 4　11:10 -12:20

歯科用CTは導入すべき？

柳 智哉先生
滝川歯科医院

1996年3月 東京歯科大学 卒業
1999年7月 日本顎咬合学会 認定医
2001年5月 東京歯科大学大学院歯学研究科 修了
2003年4月 北海道医療大学歯学部非常勤講師
2010年4月 日本歯科理工学会 理事

数年前、当院で使用中だったX線機器もついに交換部品が生産中止との通達があり、いよいよデジタル化に動き出す事となりました。デジタルX線機器は各社様々な機種が発売されておりますが、性能の比較検討を行いつつ、さらに院内デジタル化を効率よく行うための情報にもアンテナを張っておりました。
その情報の中から当院での診療形態に合わせ、CT、パノラマ、セファロの機能が備わった複合機導入を検討し始めました。CT機能が備わるだけで価格は倍以上となります。しかしながら、これから私の医院経営の方向性を考えた場合、CT導入は不可欠との結論に達したのですが、問題は導入のタイミングでした。歯科用コーンビームCTが国内販売され数年が経ち、様々な特徴を持ったCTが販売されはじめ、各社一通り出そろった感があります。その中でCT市場の動向や、今後の経済状況などを考慮し、タイミングは今しかないと重い腰を上げました。

CT導入後、今までの私の臨床症例の問題点も多々見えてまいりましたため、今後はインプラント治療のみならず一般診療においてもCTを有効活用する事が必要だと感じているとともに、訴訟問題の増える昨今、今まで以上に安全な歯科治療を目指さなければならないとも考えております。
今回は当院がなぜCTを導入したのか?また、その経緯と選択基準、そして導入後のCTを活かした臨床について発表させて頂きたいと思います。

セッション 5　13:30-14:40

歯周にやさしいインプラント技工
～カスタムアバットメントの必要要件と術式について～

遊亀 裕一先生
山手デンタルアート

1977年3月 日本大学歯学部付属歯科技工専門学校　卒業
1988年1月 有限会社山手デンタルアート開業
2005年4月 日本顎咬合学会会員
2006年4月 明倫短期大学臨床教授　現在に至る
2007年4月 日本歯科審美学会認定士

現在のインプラント補綴は、単に機能回復の達成だけでは成功とは言えず、審美性の回復と歯周組織との生理的調和が天然歯と同様高いレベルで求められています。そのため、インプラント補綴においても、歯冠部の機能･審美性の回復と共に、軟組織のマネージメントを考慮した歯肉貫通部の形態も重要となっています。
それを達成するには、埋入されたインプラントのプラットフォームから上部構造マージン部までの範囲で適切な歯肉貫通部の形態を付与する必要があり、その達成度を高めるには、プラットフォーム付近から自由に形態付与できるカスタムアバットメントが有効です。

インプラント補綴においては、固定方式や構造的に様々なコンポーネントがあるため、各症例に応じて適切な設計を行うことは重要ですが、それらを適正に選択し使用する技術も重要となります。そのなかで、金合金のゴールドコネクター上に鋳接することができるUCLAタイプのアバットメントは、形態的自由度が高いため多くの症例に使用することができます。
そこで本テーブルクリニックでは、『POI-EXインプラント（京セラメディカル製）』で、これらを実践するための必要用件、及び各コンポーネントと使用材料の使い分けを解説します。なかでも、形態的自由度が得られる鋳接タイプのキャスタブルゴールドの有効性を述べ、それを達成するための注意点や技工行程を臨床提示しながら述べたいと思います。
皆様の日常臨床のお役に立てれば幸いです。

日々の臨床にお役立ていただけるテーマで開催いたします。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

京セラメディカル株式会社